

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇5月11日～

先週の為替相場は介入警戒感から円安の動きは抑制されています。

実際に4月30日以降、チャートを見ても何度か介入しているように見えます。

為替はやや円高に動いていますが日経平均は連休明けに6万3000円を超える動きとなり、急騰しました。史上最高値更新がいつまで続くのか株価の動きも気になります。

米国も先週末は雇用統計が良かったこともあり、ナスダックやS&P500は強い動きです。

AIや半導体関連の株は好調ですが先行き不安は消えず、今後大きな調整が入るリスクもあります。半導体関連のCPUやメモリなどの株が異常な高騰となっており、過熱感は過去最高レベルということで、ITバブル崩壊の時のような動きを警戒したいと思います。

週の初めに米国のベッセント財務長官が来日するという事で注目が集まっています。

高市首相や片山財務大臣、日銀の植田総裁と日本の金融政策について話をする可能性があります。日本の金利が実質的にマイナス状態となっているため、早期の利上げを促すのではという話もあります。

とりあえず、日本の連休中に円安が進まないように介入を行ったのでしょうか介入には限界があります。今回、夕方以降に介入を行っていることを考えると米国と相談した上でタイミングを決めたのだと思います。

米国としてもドル高・円安を放置できないということでしょう。

介入で円安を阻止できない場合は、次は利上げに動く可能性が高いと思います。

実際に介入だけなら、いずれドル／円は160円を超えて170円あたりまで円安が進行するという予測も多く、介入後もドル／円は買いポジションのみで考えているトレーダーも多いようです。

そして、米中首脳会談が14日、15日に北京で開催されます。

関税問題だけでなく、実はホルムズ海峡の逆封鎖は中国がターゲットだという話もあります。

中国は、ロシア、ベネズエラ、イランから原油を買っているため米国の動きは中国封じ込めだという指摘もあります。

中国はイランと米国の仲裁役として期待されていますがどうなるのかわかりません。

突然のニュースで交渉成立か交渉決裂となれば相場が揺れ動くリスクもあるので注意がいらいます。

停戦は続いています但し米国とイランの交渉は進んでいるのか不明です。

イランは革命防衛隊の上層部の多くが排除されているため誰と交渉をすればいいのかよくわからない状況だという話もあります。

ホルムズ海峡の閉鎖は2か月以上も続いているため6月以降は实体经济にも影響が出てくるのではないのでしょうか。

初めにアジア、そして欧州の順番で影響が出てくると言われています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は断続的に介入が入った影響で上値が抑えられています。

155円台では買いが入って、戻しましたが158円あたりで急落し、再度155円まで下げています。

その後、157円あたりまで戻した後は介入警戒感から停滞した動きとなっています。

157円を超えると158円あたりが視野に入りますが介入が入るリスクがあり、上値を試す動きは勢いがなくなってくるかもしれません。

下値は155円台では買いが入りやすく、155円を割り込む動きが出なければ155-159円程度のレンジを動く可能性があります。

下値は155円を割り込むと152円台まで下落する可能性もあるため注意がいらいます。

<気になるクロス円>

クロス円も介入後に大きく下げた後は戻しています。

通貨ペアによって戻りの勢いには差があり、オセアニア通貨(豪ドル、NZドル)は戻りが早く、ユーロやポンドも戻ってきました。

カナダドルはやや戻りが弱く感じます。

週足でも他の通貨ペアは陽線となっているものが多い中、カナダドルは陰線となっています。

ただし、安値は微妙に切りあがってきてそうなので、底打ちに期待したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では3月貿易収支などがあります。

米国では4月中古住宅販売件数、4月消費者物価指数、4月月次財政収支、4月卸売物価指数、4月小売売上高、前週分新規失業保険申請件数、5月ニューヨーク連銀製造業景気指数、4月鋳工業生産などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で5月ZEW景況感調査、ユーロ圏で1-3月期GDP(改定値)、3月鋳工業生産、ドイツで4月消費者物価指数などがあります。

ほかには、英国で1-3月期GDP(速報値)、3月GDPの発表などがあります。